

「ウクライナからの避難民への「心の支援」をポーランドにおいて、  
ヨーロッパ向け医療機器版・アザラシ型ロボット「パロ」で開始」(2022年6月1日(水)付)

第2報:ウクライナからの避難民へのポーランドの医療機関  
「マゾフシェ県神経精神医学センター」と「ワルシャワ医科大学」における  
アザラシ型ロボット・パロの活用状況  
及び、

2022年7月8日(金)メディア・ブリーフィング開催のご案内

株式会社 知能システム(本社:富山県南砺市)

- ・前回のプレス向け配布資料の通り、2022年6月1日(水)ポーランド時間 10:00～(日本時間:同日 17:00～)に弊社が寄贈したアザラシ型ロボット「パロ」(最新型ヨーロッパ向け医療機器版)が、在ポーランド共和国日本国大使館と独立行政法人 日本貿易振興機構【理事長 佐々木 伸彦】のワルシャワ事務所のご尽力により、「マゾフシェ県神経精神医学センター」と「ワルシャワ医科大学」に各2体のパロが贈呈された(図1、参加者の御名前・御所属)。
- ・アザラシ型ロボット・パロは、様々なセンサやアクチュエータを有し、人工知能で制御されるロボットで、国立研究開発法人 産業技術総合研究所【理事長 石村 和彦】(以下、産総研)等が1993年から研究開発している。産総研等が有するパロ関連の知的財産権の独占的使用権を得た「産総研技術移転ベンチャー」の株式会社知能システム【代表取締役社長 大川 文男】(以下、ISC)が、2005年に日本で第8世代を市販化し、2009年からヨーロッパ、アメリカ等に輸出を始め、現在の第9世代まで、世界30か国以上に、7,000体以上が利用されている。アメリカでは2009年から、ヨーロッパでは2021年から医療機器版のパロが販売されている。欧米での医療機器として、パロの治療効果、安全性、エビデンス等の詳細については、2022年6月1日解禁のプレス向け配布資料等をご参照ください。
- ・「マゾフシェ県神経精神医学センター」の内、ユゼフ小児病院精神科では、6歳～14歳の子供達を対象として通院患者と入院患者がおり、まずは、ウクライナからの避難してきた子供達のうち、トラウマ等の影響等により通院する子供たちにパロとふれあってもらい、笑顔になって喜ばれている(添付資料①)。ユゼフ小児病院精神科のパロには、世界的に著名な音楽家で、日本人にも良く知られているポーランド人の「フレデリック・ショパン」から女性形の名前の「フレデリカ」と名付けられて、可愛がられている。
- ・「ワルシャワ医科大学」では、次のように複数の活動を行っている。
  - (1)ウクライナから避難してきた白血病の2名の男児向け:隔離病棟において、二人ともパロを大変気に入って喜んでふれあった。ただし、親から写真の撮影の許可は得られなかった。
  - (2)ワルシャワ郊外のラシンの公共幼稚園("W stumilowym lesie" [In the Hundred Acre Wood])をパロと訪問。ラシンには、ウクライナからの避難民が多く定住を始めており、ウクライナ人の子供達がこの公共幼稚園に通うことができる。パロは、子供達にも、先生にも人気が高かった。(添付資料②)
  - (3)近日中に、ウクライナからの避難民キャンプ(約5,000人)をパロと共に訪問予定。
- ・在日ウクライナ大使館から、本件、ポーランドでのウクライナ避難民へのパロを用いた「心の支援」について、感謝のメールを頂いた。(添付資料③:日本語訳(③-1)と英語電子メールPDFファイル(③-2))

・7月8日（金）（日本時間）15時45分～17時頃まで、Zoomによるオンラインで、メディア・ブリーフィング（主に日本語）を開催。参加希望者は、次の申込フォームに7月7日（木）15時までにお申込ください。申込用URL（カーソルを青い文字に当てて、クリック。またはコピーしてブラウザで開く。）

<https://forms.office.com/r/euqLJaXyxe>（[右下のQRコードでも申込みます](#)）

その際に、事前の質問を5つまで、お受けいたします。複数社が参加される見込みのため、できるだけ質問を統合した上でメディア・ブリーフィングの際にご回答させていただきます。

お申込後、Zoomのリンクを遅くとも7月7日（木）18時までにお送りします。

7月8日（金）のメディア・ブリーフィングの大きな予定は次になります。

15時30分～15時45分：接続等確認

15時45分～16時00分：メディア・ブリーフィング開始、概要説明（途中、ポーランドから接続有り）

16時～17時頃：ポーランドの2つの医療機関からご発表（ポーランド時間：午前9時～10時頃）

産総研・柴田からの概要説明の後、2つの医療機関から10～15分で自己紹介、医療機関の紹介、避難者の状況、パロの活用対象、これまでの活動と結果、今後の予定等をお話しして頂き、その後、質疑応答を行います。事前に頂いた質問への回答が終了後、その場でも質問を受け付けます。

(1) ワルシャワ医科大学：ワザレビチ・マグダレナ博士・准教授、ワルシャワ医科大学メンタルヘルス・カウンセリング・サービス・コーディネーター（英語を日本語に逐次通訳）

(2) マゾフシェ県神経精神医学センター：理事長・ステルマンスキ・ミハウ氏、ユゼフ小児病院精神科・院長・ポペック・リディア医師、児童・青年精神科リハビリ部長・ニコディム・パウリナ氏、精神科・オピドヴィッチ・モニカ医師、臨床心理学者・カウヴァ・アグニエシュカ博士（オピドヴィッチ・モニカ先生は、日系二世で、日本語でお話をいただきます。）

メディア・ブリーフィングはZoomで行いますが、その際の映像・音声は、撮影・公開可能とします。

必要に応じて、参加者ご自身で会議を録画して頂くことをお勧めします。

その他、事前に詳細を打合せることは可能です。

■本件問い合わせ先：

（メディア・ブリーフィング申込、写真等提供、パロの国際動向、研究開発、セラピー効果等に関して）

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門

上級主任研究員 柴田 崇徳 〒305-8568 茨城県つくば市梅園 1-1-1 中央第2事業所

E-mail: [shibata-takanori@aist.go.jp](mailto:shibata-takanori@aist.go.jp)、(及び、[info@paroj.jp](mailto:info@paroj.jp))

携帯電話：090-1812-3577

（パロのビジネスに関して）

株式会社 知能システム

東京支店 担当 海老沼 豊 〒140-0013 東京都品川区南大井 3-6-20

TEL 03-5753-5345 FAX 0763-62-8600 E-mail: [sales@intelligent-system.jp](mailto:sales@intelligent-system.jp)

URL: <http://intelligent-system.jp/>（日本語）、<http://parorobots.com>（英語：アメリカ）（[申込 QR コード](#)）





図1 大使公邸でのパロ贈呈式の写真と、写真右から参加者のお名前(姓・名の順)、ご所属

- ① オピドヴィッチ・モニカ医師、ユゼフ小児病院・児童・青年精神科: Ms. Monika Opidowicz, Medical Doctor at Mazowieckie Centrum Neuropsychiatrii
- ② ニコディム・パウリナ、ユゼフ小児病院・児童・青年精神科リハビリ部長: Ms. Paulina Kozłowska – Nikodym, Mazovian Neuropsychiatry Center, Head of Department of Children & Youth Psychiatric Rehabilitation (in charge of medical assistance and support of Ukrainian children)
- ③ ポペック・リディア医師、ユゼフ小児病院・精神科院長: Dr Lidia Popek, Head of Department of Psychiatry at Children’s Hospital in Józef, Main Counsellor of children & youth mental health of the Mazovian voivodeship
- ④ ステルマンスキ・ミハウ、マゾフシェ県神経精神医学センター理事長: Mr. Michał Stelmański, Mazovian Neuropsychiatry Center, Chairman of the Board
- ⑤ 宮島昭夫、駐ポーランド共和国特命全権大使
- ⑥ ヴォダルスキ・パヴェウ、ワルシャワ医科大学国際化・イノベーション担当副学長: Mr. Paweł Włodarski, Medical University of Warsaw, Vice-Rector for Internationalization, Promotion and Innovation Department
- ⑦ ワザレビチ・マグダレナ博士、ワルシャワ医科大学メンタルヘルス・カウンセリング・サービス・コーディネーター: Ms. Magdalena Łazarewicz, Ph.D., Medical University of Warsaw, coordinator of the Mental Health Counselling Service at University
- ⑧ フミエレフスカ・ダブマラ、マゾフシェ県神経精神医学センター、ウクライナ支援センターコーディネーター: Ms. Dagmara Chmielewska, Mazovian Neuropsychiatry Center, Chairman of the Board of IRIJ Foundation, Coordinator of the Ukrainian support centre
- ⑨ 石賀康之、JETRO ワルシャワ所長

添付資料①

「マゾフシェ県神経精神医学センター」の「ウクライナ児童デイ・ケア・センター&精神ユニット」(ワルシャワ市)で、6歳～14歳の子供の通院患者がパロとふれあう様子(著作権は「マゾフシェ県神経精神医学センター」で提供・公開可能)



写真①-1



写真①-2



写真①-3

添付資料②

ワルシャワ市郊外のラシンの幼稚園で、パロとふれあう子供達(著作権は「ワルシャワ医科大学」で提供・公開可能)



写真②-1



写真②-2



写真②-3



写真②-4



写真②-5

添付資料③-1

在日ウクライナ大使館からのメールの日本語訳

差出人: Embassy of Ukraine in Japan

送信日時: 2022年6月23日木曜日 12:17

宛先: Takanori Shibata

件名: RE: Pictures of Ukrainian refugees in Poland and PARO robot-medical device from Japan

柴田崇徳さん

ウクライナ大使館は、ポーランドのウクライナの子供たちによる PARO ロボットによる治療セッションについてのあなたのメッセージに深く感動しました。

確かに、残忍なロシアの攻撃は、ウクライナの何百万人もの子供たちに影響を与えました。数百人が死亡し、数千人が負傷し、数百万人が戦争によって引き起こされた深刻な不安、PTSD、およびその他のトラウマに対処しなければなりません。

しかし、この戦いでは、私たちは単独ではなく、日本は私たちの友人の一人です。私たちは、ウクライナの主権と領土保全を支援してくれた日本政府と議会に非常に感謝しています。また、多くの事業構造の財政的および人道的支援にも感謝しています。そして、私たちは、日本各地で見られる誠実な支援と共感に対して、普通の日本人に最も感謝しています。

このような状況の中で、このような困難な時期にウクライナを支援してくださった皆様、そして PARO ロボットクリエイターのチーム全体に感謝いたします。あなたが提供した支援は、ウクライナの子供たちの生活に変化をもたらすでしょう-私たちの希望と私たちの未来。そして、今日あなたに支えられている子供たちが、将来、ウクライナと日本の友情の絆をさらに深め、強化することを確信しています。

心より感謝申し上げます。

在日ウクライナ大使館

